

留学生交流で生まれた新たな楽しみ

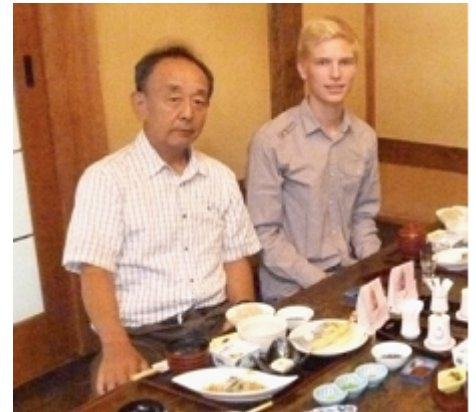
太田 正隆(登録会員)

「大阪大学の留学生ホストファミリープログラムに三井ボランティアネットワークからも参加することになったそうだ。閑なら、やってみないか」。昨年、仕事をリタイアして間もなく、会社の先輩から誘いがあり、三井V-Netの活動に加わりました。

最初のイベントは留学生対象の新聞社の見学会。大阪大学大学院の韓国出身の女子学生と知り合いました。この人は、丁寧な日本語を、敬語を交えて話します。韓国も大変な競争社会だそうで、若者は日本以上に就職や結婚で困難に直面しているようです。「貨幣価値や物価、すべてが安定している日本にひかれる」という言葉が印象に残りました。日本語を使う大学の勉強は大変なようでした。

10月には、大阪大学ホストファミリー制度に沿って、22歳のドイツ人男子留学生と半年間の交流がスタート。理系の物理学専攻で、柔道部に入り、日本人の生活や文化に関心があるようです。東京から休暇で戻った息子や娘を交えて食事をする機会があり、私の家族4人から、ドイツの家や、ガールフレンド、食べ物や車の話などで質問攻めに遭っていました。帰国前には、仕事をリタイアした父親や妹を呼び、一緒に日本旅行をするそうです。

短い間ですが、留学生に良い印象が残り、長い目で見て、役に立つ交流ができればと思います。



筆者と留学生



留学生と筆者(中央)